

令和7年度 自己評価書及び学校関係者評価書

令和8年3月18日
札幌市立北陽小学校

1 今年度の重点目標

「しなやかな北陽の子」の育成

2 今年度の経営方針

- (1) 課題対応能力……新しい時代に求められる資質・能力を育む
 (2) 自己実現能力……なりたい自分の実現に向けて努力を続ける力を育む
 (3) 人間関係形成能力……互いを認め合い、望ましい集団を作るうとする力を育む

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

達成状況:評価(A+B)の平均値が 90%以上…A 80~89%…B 70~79%…C ~69%…D

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
子ども像 目指す	学びがいの ある学校	①学校生活の安心感・充実感(自分が大切にされ、安全で快適な環境の中で、のびのびと学び・成長できるか) ・自分の目標に向かって努力できる環境がある ・自分のやりたいことに自由に挑戦できる機会がある ・ルールが守られ、安全で秩序のある学校生活を送れる ・体調を崩すことなく、元気に学校生活を送れる ・互いに認め合い、安心して自分らしくいられる	B 85%	取組①:自己肯定感を高め、思いやりの心や規範意識・人間関係を築く力、社会参画への意識を育む教育活動の充実 取組②:児童の「～したい」を実現できる活動の充実 ・児童会活動 ・クラブ活動 ※児童が学校生活の改善に関わり、主体性を高める	A	B
学校関係者 評価者による意見		<p>・学校内、学級内、登校時と、児童は概ね落ち着いて安定した環境の中で学校生活を送ることができているように見受けられました。登校時よりも交通事故の発生率の高いとされる下校時に関するより一層の指導の必要性が感じられました。</p> <p>・アンケートの「学習」や「学校生活」においては、方策①・②で改善できる部分も多いが、「運動」や「食育」は家庭での取組も必要であると考えます。改善方策の取組①については、児童だけでなく家庭や教職員の自己肯定感が大きく影響すると思われる。さらに自己肯定感を感じられるには「安心感」が重要な要素であると考えます。教職員の安心感につながる職場環境やネットワークづくりを今後も模索していくことを期待する。取組②の「児童の～したい」を実現するために教職員が児童と対話的なコミュニケーションを取っている点については高く評価している。「～したい」は「義務教育」における「主体性」の取り戻しと考える。是非学校で行われていることをもっと家庭に向けて発信していただきたい。PTAに「学校の様子発信」を依頼するなど、良い点・更に良くする点として情報発信するとよい。</p> <p>・地域から見ても、子どもたちが安心して学校生活を送ることができる環境づくりが進められていると感じます。様々な活動を通して、主体性を育てる取組も評価できると思います。今後も地域と連携しながら、子どもたちの健やかな成長を支える学校づくりを期待します。</p> <p>・「～したい」を実現できる教育活動を目指すことは、とても素晴らしい方策だと思います。是非、学習指導においても、「～したい」を大切にされ、「総合的な学習の時間」の探究のサイクルの充実や、各教科等での問題発見、解決能力の育成等に取り組むことが大切ではないかと思えます。AI などをはじめ、教員研修など、どこかのタイミングで協力できるかもしれません。</p>				

学校関係者評価:A…適切 B…ほぼ適切 C…あまり適切ではない D…適切ではない

4 自己評価結果

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価		
			達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	
調和のとれた育ち 知・徳・体の	学ぶ力の育成	基礎・基本の習熟と主体的・対話的で深い学びの実現	①成長の実感(分かったこと・できることが増えているか) ② 主体性(自ら進んで学習しているか) ③ 学習の楽しさ(学ぶことを楽しめているか)	A 92%	取組③:「発表の機会」を全学年で増やす ICT やポスターを活用し、学びを深める発表の機会を拡充 取組④:「楽しく学ぶ工夫」ICT 活用の推進 ・ICT を活用し、児童が興味をもてる授業を展開	A	A

	豊かな心の育成	自己肯定感・有用感の醸成と思いやりの心の育成	① 自己有用感(自分の良さが学校生活で生かされていると感じているか) ② 思いやりと共感(他者を思いやり、大切にできる行動ができているか) ③ いじめへの認識(いじめは絶対に許されないと理解しているか)	A 93%	取組⑥:「思いやりの心」を広げる活動 人を認め、感謝し合う習慣をつくる 取組⑥:「いじめゼロ宣言」の強化 いじめ防止の意識を児童自身が持てる仕組みづくり	A	B
	健やかな体の育成	体力・気力づくりと学習環境整備	① 積極的な運動習慣(進んで体を動かして遊ぶ・運動するか) ② 目的意識をもった運動(目標を持って運動に取り組んでいるか) ③ 健康意識(健康や食に関心を持ち、健康的な生活をしているか)	B 81%	取組⑦:「仲間・時間・空間」の創出による運動機会の充実 検証改善サイクル(PDCA)の確立 ・短い期間で「C」と「A」を繰り返す ・器械運動における ICT の活用	A	B
学校関係者 評価者による意見	<p>・放課後や休日に公園で見掛ける児童がいつも同じような児童と見受けられます。スキー学習とプール学習の機会が減る傾向にある中で日常とは少し違う、児童にとって特別感のある運動機会の確保も大切かと感じられました。</p> <p>・【学ぶ力の育成】取組③の「発表の機会」については、「発表した後」や「発表まで(取組)のプロセス」などにも着目することが必要だと思う。ICT の活用も大切ではあるが、「ICT ではできないこと」という視点での学びも大切だと思う。</p> <p>・【豊かな心の育成】取組⑥⑥「思いやりの心」「いじめゼロ」という言葉を伝えるだけでなく、「なぜ必要なのか」という、多様な捉え方・価値観に対して、問い続ける機会を通じて、豊かな心が育まれると考える。変化の早い現代社会において、固定した価値観だけでなく、柔軟性があると求められると考える。</p> <p>・【健やかな体の育成】学校行事や季節に合わせて運動の機会が創出されていると思う。学校の限られた時間、環境では限界があると考えます。放課後や休日の家庭での時間との連動を意識した取組が大切ではないだろうか。</p> <p>・授業の様子を拝見しましたが、緊張する様子もなく堂々と取り組む姿から、自己肯定感が育まれ、児童同士が互いを認め合う雰囲気を感じられました。子どもたちが主体的に学び合う取組が進められていると感じます。</p> <p>・達成状況も高い状況で先生方の確かな取組の成果が出ていると考えます。【豊かな心】に関しては、「いじめゼロ」を目指すことよりも、「つらいと言えない子ゼロ」を目指すことを大切にいただけるとよいかと思えます。【健やかな体】に関しては、PDCA サイクルには限界があります。検証改善としては、OODA サイクルに転換した方が子どもたちの実態に合わせた教育活動になると思いますので、ご検討ください。</p>						

学校関係者評価:A…適切 B…ほぼ適切 C…あまり適切ではない D…適切ではない